

8月定例所長会見における発電所長挨拶内容

所長の設楽でございます。

福島第一原子力発電所の事故からまもなく5年5ヶ月が経とうとしております。今なお、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますこと、あらためまして心よりお詫び申し上げます。

本日、私からは3点お話しをさせていただきます。

まず始めに、原子力規制委員会による審査の対応状況についてです。

当発電所6号機、7号機については、2013年9月に新規規制基準に基づく適合性審査の申請を行い、現在、原子力規制委員会による審査が継続的に実施されております。

プラント関係の審査につきましては、先月22日に原子力規制委員会による2回目の現地調査が行われました。前回の現地調査以降に設置した新たな設備や、審査での議論を通じて方向が定まってきたものの整備状況など、当社が進めてきた安全性向上の取り組みについて、現場、そして実際の現物を見ながらご説明を申し上げ、ご確認をいただきました。

今回、委員の皆さまとは、実際の設備を前に、活発な意見交換をさせていただくことが出来ました。私どもの安全対策の考え方や、規制要求をふまえた設計への理解を深めていただけたという点で、非常に有意義かつ価値のある機会だったと考えております。

引き続き、原子力規制委員会の審査に真摯に対応してまいります。

次に、8月9日に予定しております柏崎市会田市長の発電所ご視察についてです。

2016年8月4日

市長に発電所構内をご覧いただくのは、2014年5月以来となりますが、地域を代表される市長に、発電所がこれまで進めてきた安全性向上に向けた様々な取組をご覧いただく機会を賜りましたことに、感謝申し上げたいと思います。

当日は、6号機の安全対策設備をご覧いただくほか、大容量放水設備による放水訓練なども紹介させていただく予定です。

私も同行しまして、二度と重大事故を起こさないために、どのような安全対策を講じてきたかなどについて、ご説明ができればと考えております。

最後に、コベルコ鋼管株式会社が製造し、当社発電所に納入された鋼管の材質が異なっていた件についてです。

当社に納入された鋼管は3本で、うち1本が柏崎刈羽原子力発電所で設置を進めている6号機、7号機の地上式フィルタベント設備に付属するドレンタンクの入口・出口配管に布設されておりました。

同配管については、今後、本来の仕様の配管と交換を実施してまいります。

フィルタベント設備は、万が一の重大事故発生時に住民の皆さまの安全を守る重要な設備です。本件をふまえ、当社は「品質管理の徹底」という観点から、同社工場の立入調査を行い、表示と異なる材質の鋼管が製造された原因に関する同社の調査状況を確認しました。あわせて、同社に対して再発防止ならびに品質管理の徹底を要請しました。

引き続き、同社に対しては品質向上に向けた対応を求めてまいります。

本日、私からは以上です。

以上